

## 熱性けいれん

熱性けいれんは、高熱にともなっておこる全身けいれんで、子ども特有のものです。初発は生後6ヶ月～5才ころまでに多く、38度以上の熱がでるときにおこします。けいれんは左右対称で、ほとんどは数分以内にとまります。できるだけあわてずに、下記の1～6のことに注意して見てあげてください。けいれんがおさまっても、初めての場合は病院を受診してください。多くは1回のみで終わりますが、初回から2年以内に30～40%で再発がみられます。

原因はわかっていますが、未熟な脳神経において熱の刺激によりけいれんがおき、成長にともないおこさなくなるといわれています。

### ◆◆けいれんをおこしたとき◆◆

1. けいれんが何分続くかを知るため、始まった時間を知っておきましょう。
2. 横向きに寝かせて、服をゆるめ、ピンなど危ないものははずしましょう。
3. 口の中に指や箸を入れない(舌をかむことはない)、身体を大きくゆすったりしないでください。
4. 吐きそうにしたら、顔が上を向かないようにして、吐いたものがのどにつまらないようにしましょう。
5. けいれんの状態をよくみましょう。  
けいれんの部位、左右のちがい、目はどちらをむいているか など
6. けいれんがとまり(時間をみてください)、熱があるときには、解熱剤を使用しましょう。

いままでに、熱性けいれんと診断されていても、次のことに当てはまる場合は、脳波検査等が必要になることがあります。医師とよく相談しましょう。

- \* 38度以下の熱でけいれんがおきた時
- \* 15分以上のけいれん
- \* 左右対称でない
- \* 24時間以内に2回以上のけいれん

### はじめての発作の他に受診が必要な場合

- けいれんが10分以上続くか、何回もくりかえす
- 体の一部だけのけいれんや、左右の差が大きいとき
- けいれんのあとに意識が戻らない、体の動きが悪い
- 無熱性のけいれん など

